

2016.7.23

日本学術会議政治学委員会公開シンポジウム  
「高等学校新設科目「公共」にむけて－政治学の立場から」  
「18歳・19歳有権者は選択する」

明治大学政治経済学部・西川伸一

nisikawa1116★gmail.com (★→@)

<http://www.nishikawashin-ichi.net/>

@明治大学駿河台キャンパス・リバティタワー



政治過程分科会公開シンポジウム「前編・彼らはいかに選択するか」2016.6.18

「第2部 ラウンドテーブル 18歳・19歳有権者はかく選択する」

2016.7.23

**Q1:有権者になると決まったときの感想は**

(高校生) 「いきなりでびっくりした」「実感がない」

(大学生) 「18歳選挙権が“世界標準”であることは知っていたので驚かなかった」  
「父母と投票所に連れて行ってもらっていたので、うれしかった」

**Q2:選挙について友だちと話すか**

(高校生) 「日常会話の話題にならない」  
「18歳の誕生日に『有権者になるね』と言われるが、それ以上話は深まらない」

(大学生) 「自分から持ち出さない限り話題にならない」  
「友だちとは、どうせ選挙に行ってもなにも変わらないと話している」



2016.7.23

**Q3:選挙や政治についてどう学んできたか**

- (高校生)「制度の説明ばかりで、各政党の違いがわからない」  
「大学受験を意識した知識の詰め込みに偏っている」  
「いまの政治を教えてくれない」  
「もっとリアルなことを教えてくれない」  
「あえて生の政治を避けている、タブー視している」

**Q4:教員は教えるにあたって、自分の立場を述べるべきか**

- (高校生)「自分より知識量が多い大人から言われると、そうなのかと思ってしまう」  
(大学生)「教員は自分の立場を言ってもいい」  
「政策の概要まではいいが、それ以上の評価はしない方がいい」

3

2016.7.23

**Q5:日本の政治についてどう思うか**

- (高校生)「不満である。政治家たちは自分の立場を守るために政治をやっているのではないか」  
「オープンではない。限られた人々がやっているような印象を受ける」  
(大学生)「舛添問題で、政治とカネに透明性がないと思った」  
「舛添問題は、マスコミがおもしろがって報道を過熱させているだけ」

**Q6:投票先を決める際の基準は；過去の業績か未来への約束か**

- (高校生)「まず公約を読み比べて、それで判断がつかなかったら過去の業績を調べる」  
(大学生)「過去か未来かは選べない。最後は信頼できる政治家かどうかになると思う」  
「実際には過去の業績が大きい。民主党政権が3年で幕を閉じたのも結局その業績が評価されなかったためである」

2016.7.23

### コメンテーターより

「かつてのイデオロギー対立の時代は対立軸が鮮明で選択がたやすかった。いまは判断がむずかしい」

「真剣に考えることはとても重要だが、その結果投票を棄権してはなんにもならない。もう少し肩の力を抜いて、とにかく投票所に足を運ぼう」

「最初に棄権してしまうと、投票するハードルがどんどん高くなる。棄権癖だけはつけないように」

「投票は権利だが、それに甘えて投票に行かないとどんどん投票率が下がって、ごく一部の意見しか政策形成に反映されないことになる」

「後悔しないように、政治を見捨てずにみんなで民主主義を作っていくしてほしい」



## 10代の1票期待と戸惑い

2016年7月3日付『日本経済新聞』で報じられる。

5

2016.7.23

### まとめにかえて



「選挙権年齢が18歳以上に引き下げられた参院選（10日投開票）で、東北楽天のオコ工瑠偉外野手が6日、仙台市の泉区役所で期日前投票をした。

18歳のオコ工外野手は同僚の選手と午前中に投票所へ出向き、1票を投じた。有権者として初めて迎えた選挙を「自分に与えられた権利である1票の重みを感じた」と振り返った。

投票前は選挙について理解を深めるため、「いろいろな人から話を聞き、新聞やインターネットでニュースも見た」と言う。初の投票が、政治に関心を持つ機会になったようだ。

2016年7月7日付『河北新報』

7月6日午前、仙台市泉区役所で期日前投票するオコ工選手（楽天イーグルス）